



岩城少年自然の家だより

自然は友だち 青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2025年10月） 1,147,818 名 10月の利用者数 621 名

秋田県立岩城少年自然の家
（ガンバル岩城）2025. 11. 28

おとなの遠足（秋）～ 赤いリンゴにさそわれて みんなで登ろう秋の真人山 ～



秋の自然体験 おとなの遠足（秋）

自然観察や散策に関心のある成人の方を対象とした生涯学習支援事業「おとなの遠足」はとても人気のある事業です。毎回、申し込み期間の初日には、定員を超える応募があり、抽選になることもしばしば…。

今回の事業では、自然の豊かさや地域社会の歴史や文化に触れながら、動植物や地形、地域の伝統等に関する知識を深め、参加者同士の親交を図り、生涯学習の充実を図ることを目的に、事業担当者が学びを企画しました。

午前の登山では、森林インストラクター酒井浩氏を講師に迎え、真人山の自然について解説していただきました。酒井氏の詳細な解説と、歩いて、見て、触れる登山を通じて、真人山の自然の豊かさを実感していただけたかと思います。

昼食では、昼食場所を増田蔵町通り付近として、時間を長めに設定し、参加者各自が地域の歴史的な建築物に足を運び、見て、触れる機会をとりました。

午後からはリンゴ農家を訪問して、自然と産業の関連について学びました。リンゴ農家の藤原愛子氏からは、リンゴ栽培の技術的な難しさと楽しさについてお話を伺い、地域の気候風土と長い歴史の中で育まれた地域産業について学びました。

この度の事業を通じて、地域の気候風土に育まれた豊かな自然と、そこに暮らす人々の確かな生活の営みを実感していただけたのではないのでしょうか。

ファミリーキャンプ ～ 分かち合おう!“ファミ釣りキャン”をSNSで ～



豊かな自然体験の機会提供

今回のファミリーキャンプは、岩城の海と森をフィールドにして、豊かな自然の魅力に触れ、親子の絆を深める機会を提供し、参加者相互の交流を図ることを目的にして担当者が企画しました。

一日目午前は、島式漁港で釣り体験を行いました。釣りシーズン最終盤でしたが、参加者の方々は釣りの女神に微笑まれ、釣り経験者・未経験者を問わず、全員が魚を釣り上げました。

午後からは、テント設営と寝床づくり、薪割り（バトニング）を行いました。その後は、メスティン（アルミ製箱形飯ごう）炊飯や鍋料理など、本格的なキャンプ飯づくりに挑戦しました。家族と食べたキャンプ飯やたき火は、子どもたちの心に残る、一生の思い出になったことと思います。

二日目の朝食は、キャンプ朝食の代表格カートンドッグ調理から始まりました。調理中は周囲においしそうな匂いが漂い、やがて、できあがったカートンドッグ＝ホットドッグを、皆で味わいました。

最後の活動は、自分たちが撮影した活動の様子を、当施設のSNSを使用して互いに鑑賞し合い、交流しました。撮影者が画像についての思いを語った後、他の参加者の方が思いを繋ぎ、語り合う姿が見られました。事業担当者は、この場面が一番心に残っていると話します。この度の自然体験の機会が、参加者の皆様方の一生の思い出になれば、幸いです。皆様からいただいたご要望を基に、次年度の事業を検討いたします。

12月の予定

受け入れ団体・施設予定等

由利本荘市生涯学習課	17日（水）	休館日	29日（月）～ 31日（水）
能代松陽高校ソフトテニス部	25日（木）～ 27日（土）		

<主催事業・出前講座>

なかよし交流会	5日（金）	岩城小学校（1年）	10日（水）
亀田保育園	9日（火）	木のおもちゃ館	14日（日）
天王小学校（3年）	10日（水）	オープンデー	21日（日）



秋田県立岩城少年自然の家



FB



IG



HP



【施設利用のニーズ把握と広報活動】

当施設では、少子化に伴う学校利用数の減少を見据えて、一般の利用促進に向けた施策を検討してきました。そしてこの度、企業・団体・教育組織・ボランティア団体等を対象とした施設利用のニーズ把握と広報活動を実施いたします。関係各所の皆様方、ご協力、よろしくお願いいたします。

AAPを活用した企業研修の様子



岩城少年自然の家だより

自然は友だち 青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2025年10月） 1,147,818 名 10月の利用者数 621 名

秋田県立岩城少年自然の家
(ガンバル岩城) 2025.11.28

共催



自然散策路復活プロジェクト



「トレイルランニング体験 & ボランティア」

これまで、4年あまり閉鎖してきた最も長い自然散策路「うさぎコース」。改修工事費用の見積もりは、概算で数百万から一千万円以上でした。

今年度、総務チームリーダーを中心に、平均年齢53歳を超える総務チームの職員とともに、何度となく自然散策路に足を運び、当施設職員だけの改修は困難だと判断しました。

予算の見通しが立たず、人員不足での自然散策路改修。一見不可能に思えるこの取組に賛同していただいたのが、協賛団体山人楽師（やまとがくし）の皆さんでした。

山人楽師さんからは、当施設の改修作業にボランティアとして無償で協力していただきました。この取組は地域に広がり、地域の方やジオパーク事務局の方からもご協力をいただきました。そしてついに、今年度内で自然散策路改修完了の見通しが立つこととなりました。

さらに山人楽師さんから、「最長自然散策路を使用したトレイルランニング体験」実施のご提案をいただきました。新たな自然体験に向けた、施設活用の取組が始まりました。

令和7年11月16日（日）、秋田県内各地から参加いただいた17名のトレイルランナーを志す方々が当施設に集い、自然散策路を徒歩で一周した後、各自のペースで安全に留意した走りで、自然散策路を周回しました。

参加者の方からは、当施設の自然散策路が起伏に富む素晴らしいコースであることや、安全面の対策方法などについて、貴重なご意見をいただきました。

皆様のご意見を基に、次年度に向けて新たな施設活用の在り方を検討してまいります。